

2018年度慶應義塾大学経済学部世界史

- I 1. (a) ゴードン (b) 洪秀全 (c) ムハンマド=アフマド (d) グラッドストーン
2. (1) 2,3,5,4 (2) ア、1 イ、2 ウ、2
3. (1) 滅満興漢を掲げて清朝の打倒を目指し、アヘン吸引や纏足などの廃止、土地の均分などの政策を打ち出した。
- (2) ア、8 イ、3
4. 2
5. 東インド会社を解散し、インドの直接統治に乗り出し、ヴィクトリア女王がインド皇帝に即位し、イギリス支配下でインド帝国が成立した。また従来の強圧的な政策から、服従した地方政権は藩王国として自治を与えつつ、インド人同士の対立を作り出し互いに連携が取れないようにする分割統治という政策へと転換した。
6. 占領の条件としての実効支配の原則と先に占領した国が領有できるという占有権の原則。
7. (1) ア、3 イ、2 a,7 b,5 c,3 d,7 (2) α、6 β、1
8. 2
9. (1) 2 (2) a7 b5 c6 d8 e3
- II 10. 銀
11. 2
12. おもに石見銀山で産出した日本銀は中国向けに長崎から輸出され、中国にもたらされた。スペインが植民地化した新大陸のポトシ銀山やラテンアメリカからの銀は、メキシコのアカプルコからガレオン船によって中継拠点であるマニラに運ばれ、そこから中国にもたらされた。
13. (1) これまでの煩雑な徴税方法を簡素化し、税負担の不均衡を解消するため、各種の税を銀に一本化して納入する一条鞭法が導入された。
- (2) ラテンアメリカからの大量の銀の流入により、価格革命と呼ばれる物価騰貴が起こり、固定地代の収入で生活する領主は打撃を受け、封建社会の崩壊を早め国王による中央集権化を推し進めることとなった。また銀は貨幣として大量に流通し商工業の発展を助け、封建制から資本主義への移行を促進した。
- III 14. a 李承晩 b 金日成
15. (1) ヴェルサイユ条約で自由都市とされていたダンツィヒの返還と、ポーランド回廊での鉄道建設などの東プロイセンへの陸上交通路を要求した。
- (2) 3,1,2,4,5
16. (1) α2 β3 (2) ア6 イ8 ウ4 エ7 オ5
(3) 4,2,1,3
17. a7 b5 c3
18. 3
19. 3

20. 2,1,4,3

21. 2,1,4,3

22. ユーゴスラビア連邦ではティトの死や、ソ連の解体による共産主義政党の影響力の低下により90年代には連邦の解体が進行した。アルバニア系住民の多いコソヴォ地区でも自治要求が高まり内戦が勃発すると、セルビアはアルバニア系住民に対して虐殺を行った。そこで、NATO軍は人道的介入として空爆を行った。